

連系線の運用容量算出における課題の検討について

2022年5月13日

- 昨年度、検討条件や課題について運用容量検討会において検討を行った。今年度も引き続き、中・長期的課題について検討を行う。
- 検討条件に関して要望を受けた時は、対応を審議し、必要に応じて課題の追加や進め方の見直しを行う。
- 今年度の検討結果は10月の運用容量検討会にて取り纏め、算出方法の見直し内容について意見募集を行う。
- 今年度完了しなかった件名については、次年度以降検討を継続する。

		2022年度の課題	目的	内容	幹事会社 (協力会社)
1	新規	熱容量の適用期間細分化	再エネ出力制限量の低減、電力取引の活性化等を図ること。	全ての連系線（設備容量が制約となる直流設備除く）を対象として、熱容量の適用期間を現状よりも更に細分化できないか検討を行う。	四国、東京、電発 (各社)
2	継続	夏季・冬季熱容量の整理・公表	需給ひっ迫による緊急時運用容量への拡大に備えて、事前に熱容量限度値を正確に把握すること。	架空線の熱容量が熱容量限度値の制約となっている連系線を対象として、夏季・冬季の熱容量を整理する。 中部関西間連系線（中部側）、北陸関西間連系線（北陸側）の冬季熱容量については、同じ線種である他の連系線と同じ値にできないか検討を継続する。	中部 (各社)
3	継続	周波数維持限度値算出における特殊日等の設定に関する見直し	運用容量（周波数維持限度値）の更なる増加を図ると共に算出する値に対する透明性を高めること。	周波数維持限度値を算出している連系線を対象として、連系線毎に異なるGW・お盆・年末年始、土曜日、休日明け・特殊日明けに対する設定（平日・休日・特殊日）の考え方を定量的に一般化できないか検討を継続する。	広域 (中西6社)

- 全ての連系線（設備容量が制約となる直流設備除く）において、熱容量限度値の制約となっている設備を対象として、熱容量の適用期間を現状よりも更に細分化できないか検討を行う。

赤字：検討対象

連系線	連系線を構成する設備		制約となっている設備：熱容量適用期間
東北東京間連系線	相馬双葉幹線	架空線、直列機器	-
	いわき幹線	架空線、ケーブル、直列機器	ケーブル：通年
中部関西間連系線	三重東近江線	架空線、直列機器	架空線：夏季5月～10月、冬季11月～4月
北陸関西間連系線	越前嶺南線	架空線、直列機器	架空線：夏季4月～10月、冬季11月～3月
関西中国間連系線	西播東岡山線	架空線、直列機器	架空線：夏季5月～10月、冬季11月～4月
	山崎智頭線	架空線、直列機器	-
	播磨西線	架空線、直列機器	-
	新岡山幹線	架空線、直列機器	-
	日野幹線	架空線、直列機器	-
	中国東幹線	架空線、直列機器	-
中国四国間連系線	本四連系線	ケーブル、直列機器	ケーブル：通年
中国九州間連系線	関門連系線	架空線、直列機器	架空線：夏季3月～11月、冬季12月～2月